

## はしがき

著者	秋山 学
雑誌名	古典古代学
号	9
ページ	i
発行年	2017-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00145336">http://hdl.handle.net/2241/00145336</a>

## はしがき

今年度も本誌『古典古代学』を公にできることは、編者にとって大きな喜びである。

第1論文の執筆者である徳永ひとみ氏は、2017年3月をもって筑波大学大学院人文科学研究科・国際地域研究専攻（修士課程）を修了された古典学徒である。古典ギリシアの韻文を扱う論文が本誌に収録されるのは、創刊以来初めてのことである。

第2論文の執筆者である石田隆太氏には、本誌の第8号にもトマス・アキナスによる『定期討論集 霊的被造物について』第四項の邦訳を投稿していただいた。氏には、2017年度も引き続き、日本学術振興会特別研究員としての活躍が期待される。

第3論文の執筆者である菊地英里香氏は、本誌創刊以来のメンバーである。今年度号には、キリスト教学校修士会の活動によりわが国にも親しいジャン＝バティスト・ド・ラ・サールの教育思想について、論考を寄せてくれた。

なおこのほか、筑波大学大学院古典古代学研究室に関わる活動としては、金学淳氏が2016年12月31日付で、学位論文『曲亭馬琴研究—江戸出版文化と異国表象を通して—』により、めでたく博士（文学）の学位を取得された。氏の今後の活躍を祈念したい。

引き続き、読者各位の心ある支援をお願いする次第である。

2017年3月25日

筑波大学人文社会系 教授

秋山 学